Eu-020　　会場：C402　　時間：6 月 8 日　9:15-9:30

SuperDARN 観測を用いた沿磁力線電流の時間空間スケールの評価

An assessment of temporal and spatial scales of field-aligned currents by SuperDARN

 # 出口　大樹[1]，飯島　健[2]，佐藤　夏雄[3]

Hiroki Deguchi[1], Takesi Iijima[2], Natsuo Sato[3]

[1] 九大・理・地球惑星，[2] 九大・理系・地球惑星，[3] 極地研

[1] Earth and Planetary Sci, Kyushu Univ, [2] Earth & Planetary Sci.,Kyushu Univ, [3] NIPR

国際 SuperDARN レーダー網による HF レーダー観測から得られたプラズマ対流データをもとに、今回、高度４００km の球面上で見られる沿磁力線電流（FACs）に関係する３つの物理的特性についての解析を行った。その特性とは（1）単純な流速の速度シアー（大規模な FAC を表す）、（２）流速方向に変化する非線形の速度シアー強度（中規模スケールの FAC を表す）、（３）流速の速度シアーの時間変動（FAC の時間変化を表す）である。上記の解析を地上の極地域の磁場変動、惑星間空間磁場変動の活動度に関係させて、十数イベントについて行った結果をもとに、沿磁力線電流の発生メカニズムについて追求する。

国際 SuperDARN レーダー網による HF レーダー観測から得られたプラズマ対流データをもとに、今回、高度４００km の球面上で見られる沿磁力線電流（FACs）に関係する３つの物理的特性についての解析を行った。その特性とは（1）単純な流速の速度シアー（大規模な FAC を表す）、（２）流速方向に変化する非線形の速度シアー強度（中規模スケールの FAC を表す）、（３）流速の速度シアーの時間変動（FAC の時間変化を表す）である。上記の解析を地上の極地域の磁場変動、惑星間空間磁場変動の活動度に関係させて、十数イベントについて行った結果をもとに、沿磁力線電流の発生メカニズムについて追求する。